

第8回東京部会・東京都放射線技師会合同学術講演会のご案内

東京部会と東京都放射線技師会の合同事業であります合同学術講演会を開催致します。今回は乳がん画像と病理画像の関わりについてご講演をしていただきます。

乳がんのより良い撮影を行うためには乳腺画像に関する幅広い知識を持つ必要があります。その中でも乳腺画像の病理組織を学ぶことは、より精度の高い撮影につながると思われます。会員の皆様の多数のご参加をお待ちしております。

日 時 : 平成20年9月11日(木曜日) 19時00分 ~ 20時30分

会 場 : 富士フイルムメディカル株式会社 本社講堂

テーマ : 『乳がん画像(MMG・US)と病理画像の関わりについて』

講 師 : 東京慈恵会医科大学附属第三病院 放射線部 松原 馨

講演要旨:

周知のように、現在、乳がんは女性が罹るがんの中で罹患率第1位であり、30歳代から60歳代では全てのがんの中でも死亡率が第1位の疾患となっている。2001年度には乳がん罹患者数40,675名、2005年度には乳がん死亡者数10,721名(共に国立がんセンターがん対策情報センター)となり、ほぼ右肩上がりです。これは、わが国における乳がん検診の受診率の低迷と日本人の乳がん罹患年齢の特殊性等に起因していると考えられる。

今回は、乳腺診療にかかわる画像診断の中でも、最も我々診療放射線技師に関わりの深いマンモグラフィと超音波画像を取り上げ、各々の持つ特性や特徴を把握し直し、さらに各々の有用性を再考する機会としたい。また、乳腺診療に携わる者として、必ず持たなくてはならない乳腺病理の知識と他の乳腺画像との関わりについてお話し、乳腺画像に取り組む意識を新たにしていきたい。例えば、普段から何気なく用いている「浸潤性乳管癌」をわが国では病理学的に乳頭腺管癌・充実腺管癌・硬癌の3つの型に分類しているが、それぞれの発育形態・構造等の特徴を認識することにより、より画像読影が精度の高いものとなり、さらにレベルの高い追加・応用の撮影・走査が可能となる。

このように、病理画像と乳腺画像を対比した考え方をすることにより、明日からの乳腺診療の一助となることを期待する。

参加費: 会員1,000円 非会員2,000円 学生会員、学生は無料

連絡先: (社)日本放射線技術学会東京部会連絡事務所

E-mail: tokyobukai-adm@umin.ac.jp

TEL. 03-5816-3066

会場のご案内

場 所：〒106 - 0031

東京都港区西麻布2-26-30

富士フィルム西麻布ビル

富士フィルムメディカル株式会社 本社講堂

- 交 通：
- ・地下鉄：銀座線・千代田線 表参道駅下車徒歩10分
 - ・地下鉄：日比谷線・大江戸線 六本木駅下車徒歩15分
 - ・バ ス：JR 渋谷駅東口からの「新橋駅行き」もしくは「アークヒルズ行き」のバス乗車、二つ目の停留所「南青山7丁目」下車0分。社内で「富士フィルム西麻布ビル前」のアナウンスあり。

